

デシカント外気処理機・デシトップ

製品仕様書

型式: TD050HP-T20RDA-HX

東プレ株式会社

製品仕様表

項目			仕様
型式名			TD050HP-T20RDA-HX
電源			三相 200V 50/60Hz(注4)
除湿冷房性能 (注1)	除湿量	kg/h	8.46
	全熱能力	kW	6.20
	潜熱能力	kW	5.87
	消費電力(全熱)	kW	1.55
加湿暖房性能 (注2)	加湿量	kg/h	3.96
	全熱能力	kW	6.63
	潜熱能力	kW	2.75
	消費電力(全熱)	kW	1.10
外装			亜鉛鋼板
外形寸法			mm W1150×L1400×H450
ファン	形式		遠心ファン
	電動機出力	kW	0.24×2
	風量	m ³ /h	500
	機外静圧	Pa	150
	駆動方式		直結駆動
圧縮機	形式		全密閉スクロール式
	電動機出力	kW	1.1
	始動方式		直入始動(インバータ方式)
フィルター	OA/RA		不織布フィルター(質量法捕集効率82%)
質量		kg	194
運転音	Aスケール(注3)	dB	39.5
保護装置			ファンドライバ過負荷保護装置 圧縮機インバータ過負荷保護装置 圧力スイッチ
冷媒	冷媒名		R410A
	充填量		840g
	制御		電子膨張弁

(注1)室内27°CDB,19°CWB、室外33°CDB,28°CWB時

(注2)室内22°C 50%RH、室外0°C 50%RH時

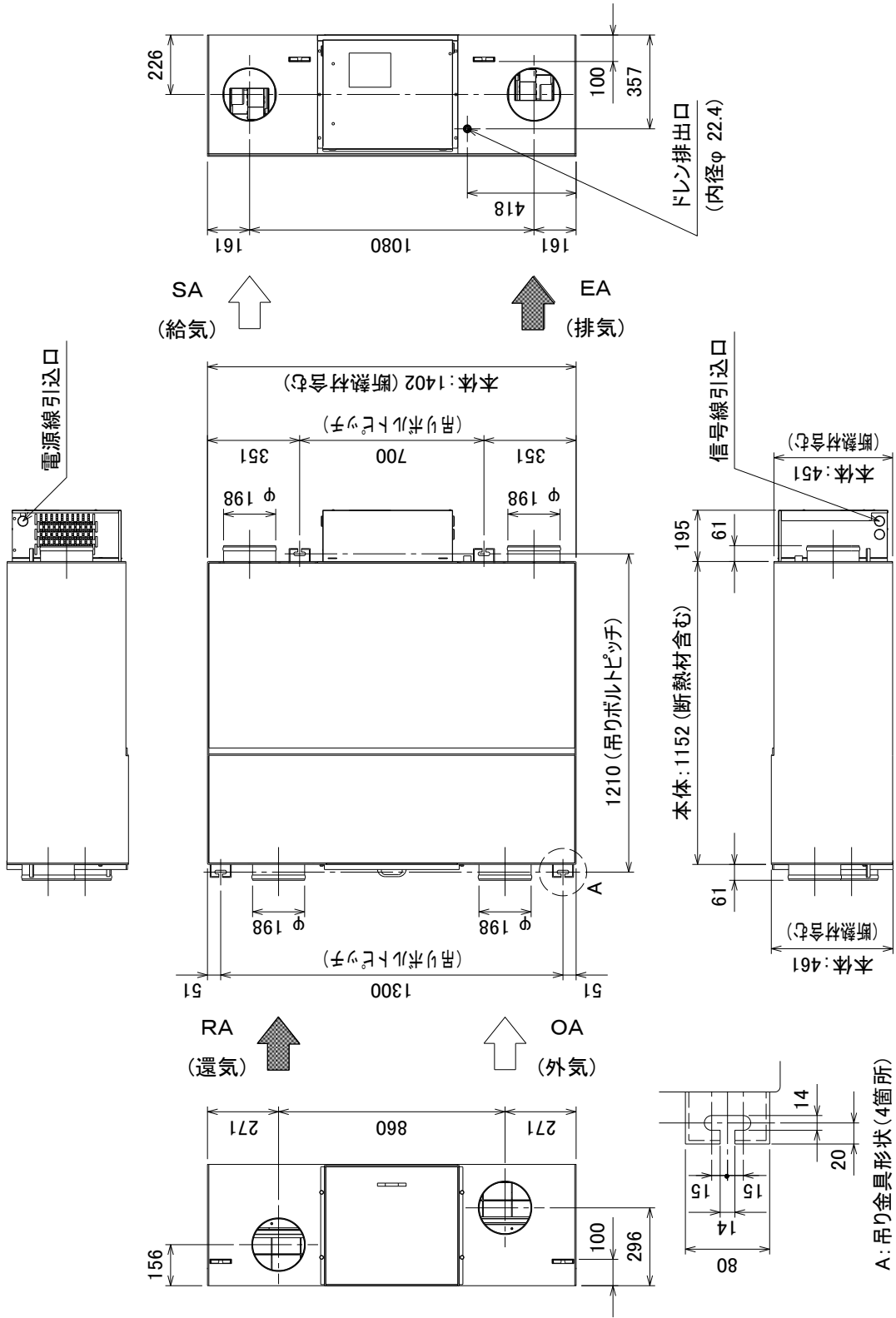
(注3)運転音は本体真下1.5mで測定した時の値です。

実際に据え付けた状態で測定すると周囲

の騒音や反射を受け、表示値より大きくなるのが普通です。

(注4)表中の数値は、50Hz、60Hz共通です。

機器外形図



A: 吊り金具形状(4箇所)

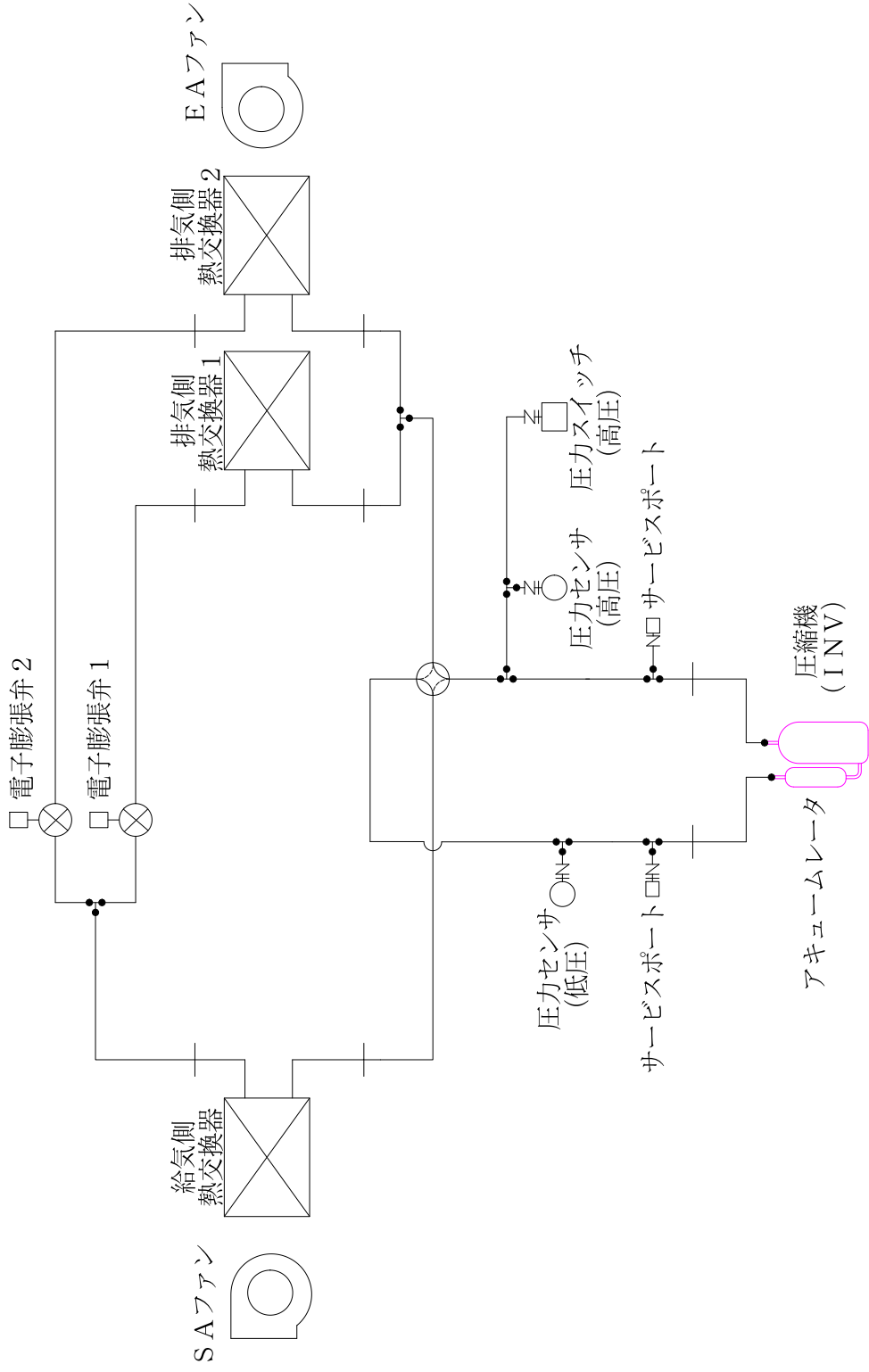
機外配線要領

配線用遮断器		漏電遮断器			電源配線	
定格電流	アース線(銅)	定格電流	定格感度電流	作動時間	アース線(銅)	配線最少太さ
15A	2mm ² (φ1.6mm)以上	15A	30mA	0.1sec以内	2mm ² (φ1.6mm)以上	2mm ² (φ1.6mm)以上

- 1) 本機は3相 200V (50/60Hz) 専用機器です。
- 2) 配線要領は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」(JEAC8001)に従ってください。
- 3) 電源配線は、VVFケーブル配線の場合で選定しています。
「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」では、固定して施設する配線への「コード」の使用を禁じています。
また配線距離が長い場合でも、電圧降下が2%以下になるようにしてください。
- 4) 遮断器の定格遮断容量は、現地設備・工事内容によりそれぞれ異なります。
内線規程の資料 1-3-19 JEAC8701(1968)『低圧電路に施設する自動しゃ断器の必要なしゃ断容量』に記載されていますので、適合する遮断器を選定してください。
- 5) 漏電遮断器が地絡保護専用の場合は必ずヒューズ付負荷開閉器または配線用遮断器と組み合わせてください。

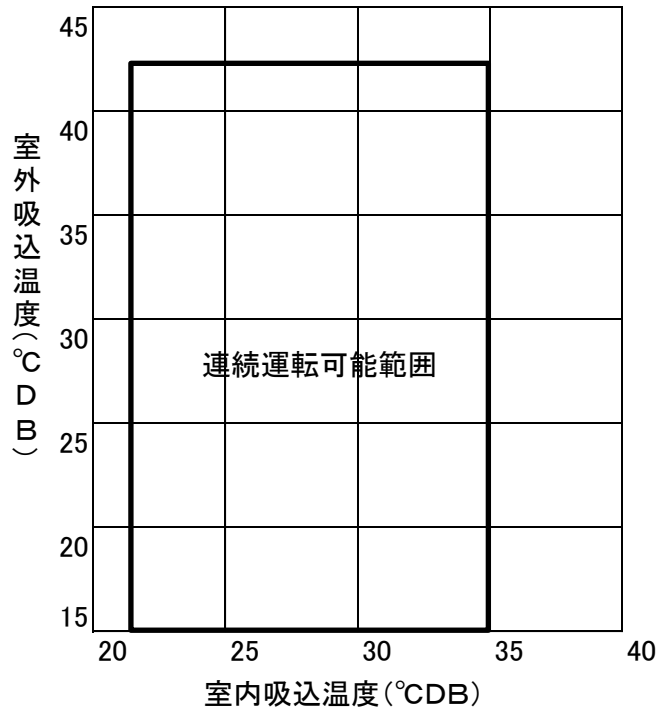
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が「電気事業法」・「電気設備に関する技術基準」、
「内線規程」に従って施工し、電源接続部は必ず専用回路を使用してください。
- 配線用遮断器を取付けてください。(本機器は配線用遮断器を内蔵しておりません。)
- 漏電遮断器は必ず施設してください。
- 漏電遮断器は必ず高調波対応品を使用してください。
(本機器はインバータを備えており、高調波による漏電遮断器の誤動作を防止するためです。)
- D種設置工事は必ず行ってください。(接地抵抗100Ω以下)
- アース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線と接続しないでください。
- 電気配線工事は、電気配線銘板(電装ボックスカバー裏に貼付)および取付説明書に従って行なってください。
- 力率改善用進相コンデンサは取付けしないでください。本機器はインバータを備えており、力率改善効果が期待できません。また高調波によるコンデンサ異常加熱の原因になります。
- 端子ねじを締付けすぎるとねじを破損する可能性があります。
- 配線は所定の電線を使い確実に接続してください。
- 運転・停止用のスイッチ(市販品)は製品説明書をご確認の上、配線(現調)してご使用ください。
- ご使用になる製品の説明書をご確認の上、配線してください。
- 電気配線工事は必ず電源を遮断してから作業してください。
- 電源はすべての作業が終わるまで電源を入れないでください。

配管系統図

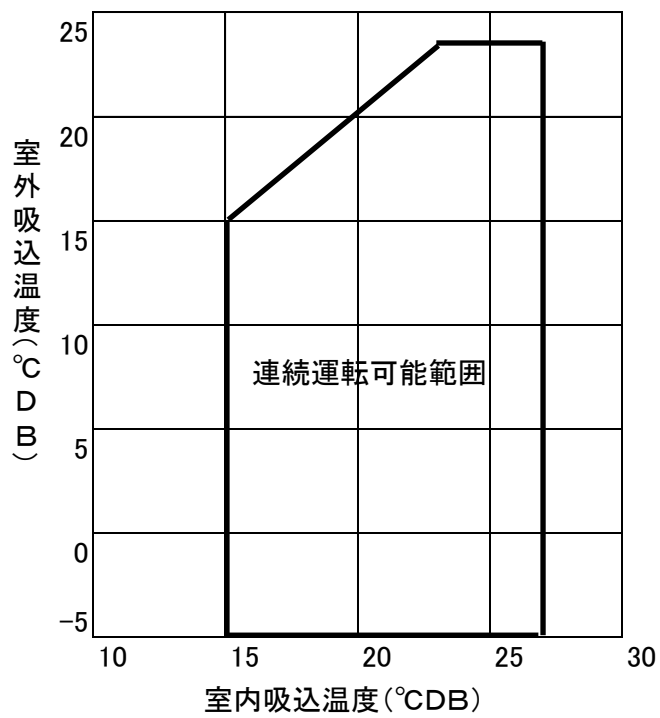


運轉可能範圍

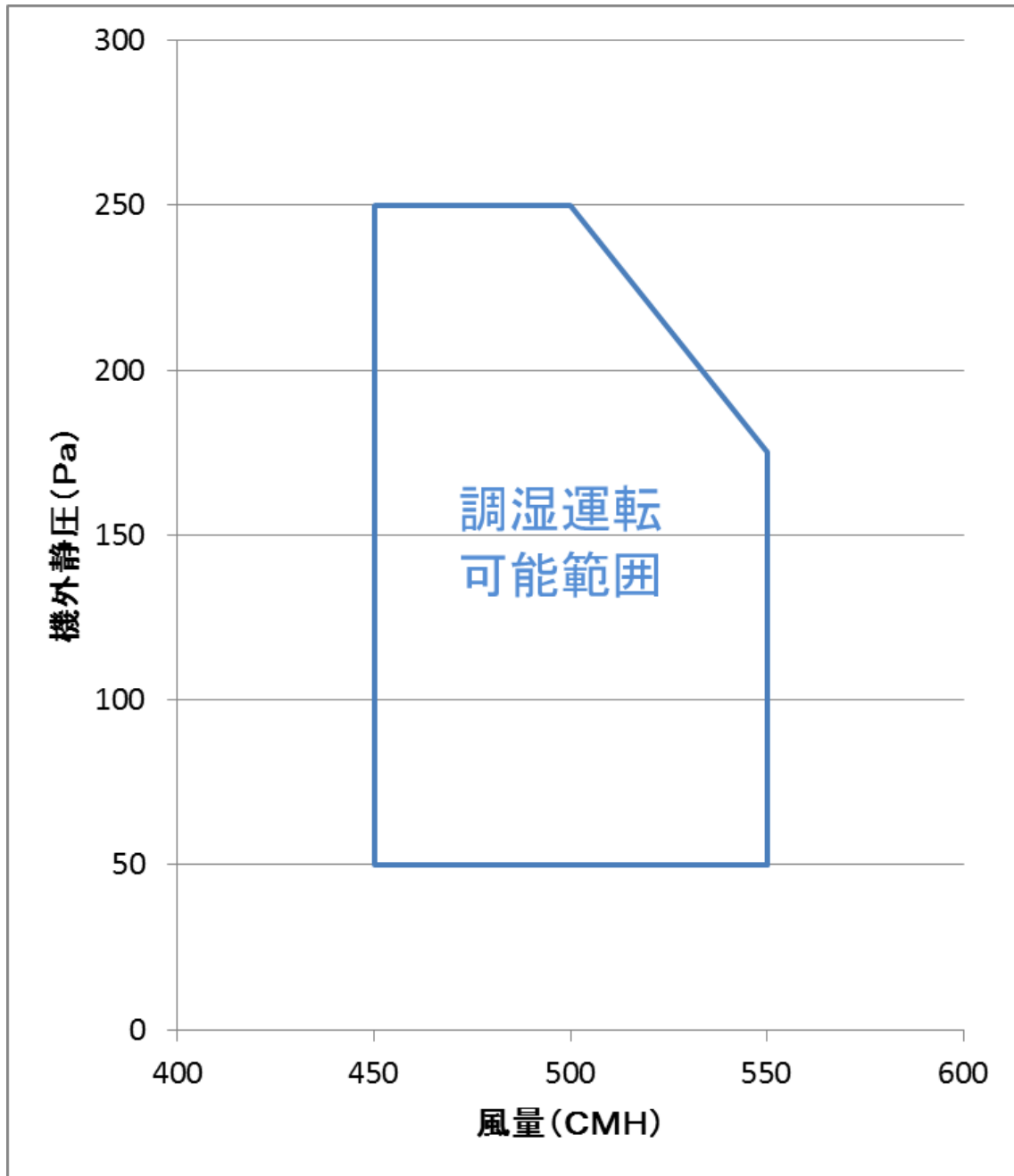
除湿



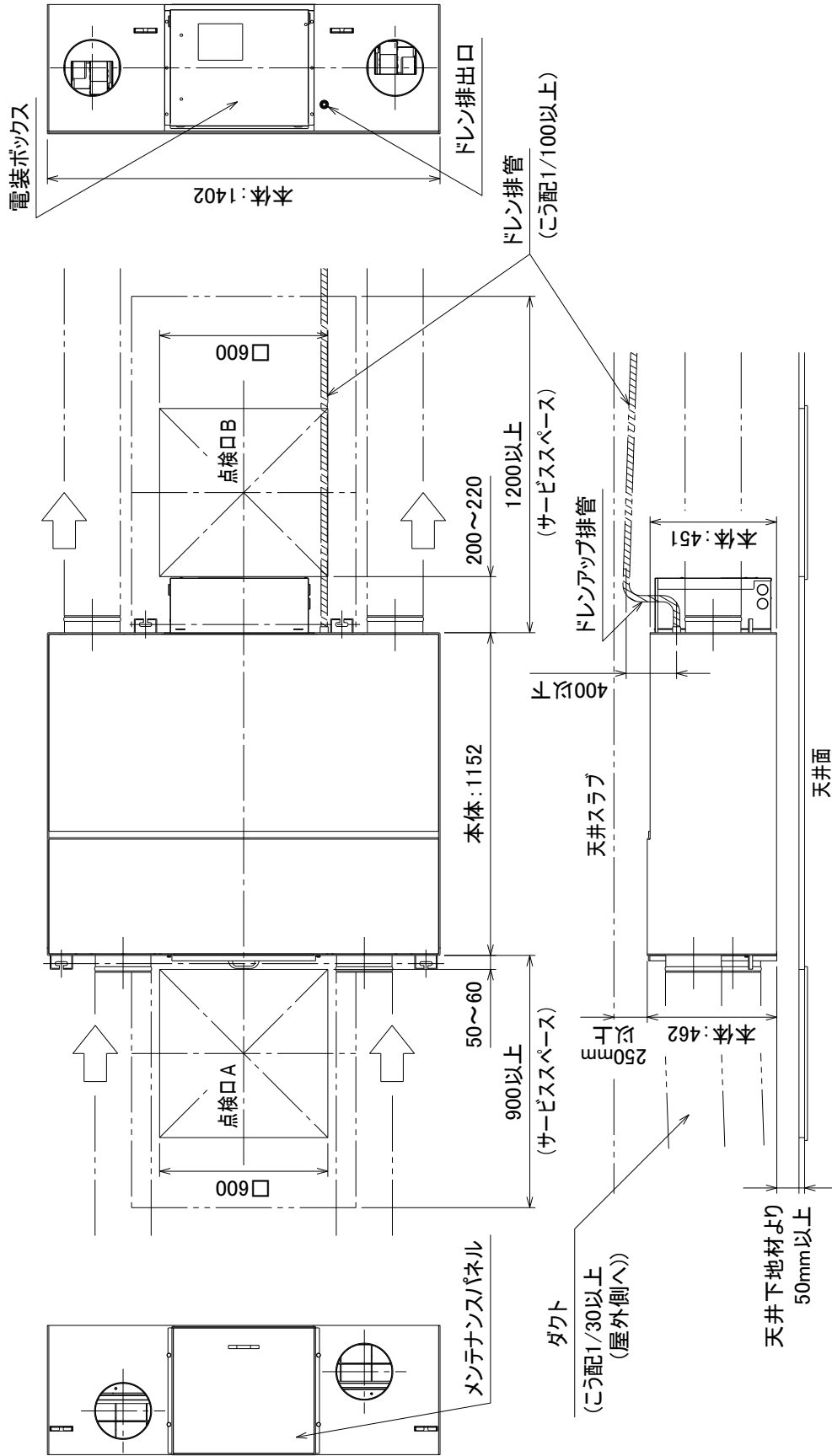
加湿



ファン特性



必要取付スペース



設置上の注意事項

- 天井内の環境が温度30℃、湿度80%RHを超える場合は、本体を断熱材で覆ってください。
断熱材は、十分に保温効果があるものをご使用ください。
- 本機はインバーターを搭載しており、電化製品に雑音を混入させることがあります。
取付場所選定時は電化製品から十分な距離が取れる場所をご検討ください。
- 冷媒ガス（R410A）は、それ自体は無毒・不燃性の安全な冷媒ですが、万一室内に漏れた場合、その濃度が許容値を超えるような小部屋には、冷媒漏れへの対応が必要となります。
- 地域によっては、ジャバラを使用できない場所がありますので十分にご注意ください。
（詳細は、行政官庁または消防署にお問い合わせください。）
- 共同ダクトへ排気する場合には、建築基準法施行令により、防火の役割を果たすものを使用することが義務付けられていますので、2mの鋼板立ち上がりダクトまたは逆流防止ダンパーを取付けてください。
- 本機にはドレン配管が必要です。排水工事は各市町村の条例に従ってください。
- 強度が十分で安定したところ（梁・天井などが機器の重さに十分に耐えられるところ）。
・・・強度不足の場合、機器の落下によるケガの原因になります。また振動・異常音の原因になります。
- 風の通路に障害物がないところ。
- 天井・壁などに接触しないところ
・・・機器が周囲の天井・壁などに接触していると振動の原因になります。
- 取付上、メンテナンス上の作業スペースおよび接続するダクトのスペースが確保できるところ。
- 可燃性ガスなどがもれることのないところ。
- 天井材が取り付けられているところ（機器の設置場所は天井裏です）。
・・・天井材がないと、静かなところで使用する場合、騒音の原因になることがあります。
- 取付には吊りボルトを使用します。取付場所が機器の重さに耐えられるか検討し、必要に応じて補強した上で、吊りボルトを設置してください。

ダクト配管工事の注意事項

- ダクトはφ200ダクトをご使用ください。
- 「極端な曲げ」「多数回の曲げ」「ダクト径を極端に小さくする」「ダクト接続口すぐ近くでの曲げ」などのダクト配管はしないでください。風量低下や異常音・異常振動発生の原因になります。
- フレキシブルダクトの最小曲げ半径は300mm（1.5D）以上としてください。
- ダクトとダクト接続口は空気がもれないようにアルミテープなどを巻いてください。
- 室内側（SAおよびRA）と室外側（OAおよびEA）のダクトおよびダクト接続口は、結露防止のため十分な断熱性を有する断熱材で必ず行ってください。
- 室外側のダクト（吸込（OA）および吹出（EA））は、2本とも屋外側へ下り勾配（勾配1/30以上）になるように取り付け、雨水などの浸入を防いでください。
- 室外側吹出空気（EA）を通路に出すなどの室外側吹出空気の2次利用はしないでください。
室外側吹出空気は、必ず屋外に排気してください。
（室外側吹出空気は、空気条件がよくない空気のためです）。

- 室内側の吹出グリル（S A）と吸込グリル（R A）は、ショートサーキットをしない位置に取り付けてください。
- 室内側の吹出グリル（S A）は、ドラフト防止や気流分布などの観点から、2 箇所以上設けてください。また室内側の吹出グリル（S A）を部屋の隅（2 面以上の壁に接した場所）に取り付ける場合は、各壁から 1 m 以上離れた位置に取り付けてください。
- 室内側の吹出（S A）経路に、消音ダクトや消音チャンバを接続すると、吹き出し音の低減に効果があります。用途に応じ、風量・騒音値を考慮して部材選定を行い、取り付け工事をしてください。
- 室内側の吹出グリル（S A）は、ドラフト防止のため、吹き出した空気が直接人にあたらない位置に取り付けてください。

ドレン配管工事の注意事項

- ドレン配管は、本体ドレン排出口から下り勾配（1 / 100 以上）となるように配管し、空気溜まりのないようにしてください。
- ドレン配管の途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管の途中で内径を縮小しないでください。
- ドレン配管は、アンモニアガス、イオウ系ガスなどが発生する下水溝には、直接入れないでください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生するおそれがない場所に施工してください。
- ドレン配管接続部から水もれがないように確実に施工してください。
- 水たれが起こらないように断熱処理を確実に行ってください。
- 室内を通るドレン配管は本体のソケットを含め、必ず十分な断熱性能を有する断熱材（市販品）を巻いてください。
 - ・ 最上階や高温・中温高湿雰囲気などの条件でご使用される場合は、通常よりも断熱性能が高いものをご使用ください。
 - ・ 指定の仕様がある場合は、それに従ってください。
- ドレン配管施工後、確実にドレン配管がされていることを確認してください。
- ドレン配管は、途中に支持金具を設けて（間隔：1 m～2 m（配管材質による））波打ちをなくし、確実に取り付けてください。また通気管は絶対につけないでください（ドレンが吹き出す場合があります。）。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプ一般管 V P 1 6（外径φ22）をご使用ください。
- 排水工事は各市町村の条例に従ってください。
- ドレン配管は必要なサービススペース内に配管しないでください。必要なお手入れ・メンテナンスができなくなります。

電気配線図

